

○コロナで途絶えたお客さん呼び戻す一助となり、お客さんと地元の人との交流が図られ、その関係性が深くなって行くことを実感できました。酔った勢いで、秋の力や刈り、来春の力や始末の日程まで決めてもらいました。

■交流から協働へ、そして移住

○地域を知っていただく、共に汗をかき間柄を深める。そんな活動が地域を元気にし、ウエルカムの雰囲気を作る。活動の継続がUターン・Iターン・孫ターンにつながっていくと思ひ込みたい。
(文責 中村圭希)



☆荻ノ島ふるさと村組合／念願の酒「わたしの荻ノ島」を数量限定で販売

(柏崎日報 5/1 掲載記事を一部修正のうえ転載させていただきました)

○荻ノ島で栽培された酒米「五百万石」を使った石塚酒造の純米吟醸酒「わたしの荻ノ島」が今春、数量限定で発売されました。売り上げの一部は荻ノ島のかやぶき集落維持のための活動に寄付されます。

○酒米「五百万石」はカフェ「陽の楽家」店長の橋本和明さんを中心に、地区住民や姫ノ井従業員らが一丸となって田植えから収穫まで取り組みました。

○その酒米を 93%使用し、残りの 7%を高柳産もち米で、姫ノ井の特徴四段仕込みで造り挙げました。冬場仕込みで橋本さん、元地域おこし協力隊員の小柴康隆さんらも手伝いました。

○杜氏金沢要介さんは「昔ながらの仕込みで、もち米の優しい甘み、『五百万石』のすっきりと、きれいな味わいを両立させて。お酒を絞るときに、一番いい部分の『中取り』だけを集めて瓶詰めした」と話します。



※今期の販売は終了(完売)しました。

○春日俊雄さんは「10年ほど前から荻ノ島で日本酒ができればいいと思っていた。お酒を通し、新しいつながり、絆が生まれたらいい」と期待をよせています。

○「わたしの荻ノ島」は精米歩合 60%アルコール分は 14 度。ラベルはデザイナー梅原真さんの作品で荻ノ島のかやぶき、小さな集落をイメージした。300本の数量限定で、1本 1760円(720ml 税込み)のうち300円が寄付となります。

発行 高柳コミセン「じょんのびの里」部会

乗岡元孝 大倉正大 米山硬

永井基栄 小林抄吾 吉田敦子

大橋拓哉 春日悟 小野島弘

編集 NPO法人里山夢もっこ

高柳地区コミュニティ振興協議会

〒945-1595 柏崎市高柳町岡野町 1849-1

TEL & FAX : (0257) 41-2234

E-mail : c-takayanagi@kashiwazaki-cc.net